報道関係各位

平成 29 年 11 月 17 日
Slack Technologies, Inc.

～ その仕事、Slack で。～
働き方改善・生産性向上をサポートするビジネスコラボレーションツール
「Slack」11 月 17 日 日本語版ローンチ

URL : https://slack.com/

Slack Technologies, Inc.は、2017 年 11 月 17 日（金）よりビジネスコラボレーションツール「Slack(スラック)」の日本語版利用が可能となったことをお知らせします。Slack は、人々と組織、そして様々なツールをつなぐことで、作業効率を改善し、組織を活性化するサービスで、世界 100 カ国以上の企業で使われています。日本語でのサポートが導入されたことにより、日本語を常用するより多く方々に、好みの言語で Slack を利用し、各自の仕事をスムーズに進行させることができるようになります。

昨今の日本では、長時間労働、少子高齢化による労働人口減少などの社会課題に注目が集まり、「働き方改革」を多くの企業・自治体で実現すべく、さまざまなアクションが展開されています。

Slack は、チーム内での調整や共有をスムーズにし、業務効率の改善に必要なサービスやツールとチームをつなげることで、生産性を高めてよりよい働き方をサポートするビジネスコラボレーションツールです。プロジェクト管理やメンバーの新規採用、コードの実装、予算案作成、新規オフィス開設など、ビジネスのあらゆる局面をサポートします。また、企業で利用するアプリケーション・ソフトウェアは日々増加し、個々人のプライベートSNSをビジネスで利用することも問題視されるなか、Slack による一元化でこのような課題も解決することができます。

日本でより Slack を使いやすくするために、サービスの細部にまで注意を払ってローカライズをしています。UI の内容を自然な日本語に翻訳するほか、例えばキーボードコマンドがどのように機能するかという日本人ユーザーの特性から「メッセージ送信」ボタンを構築するなど、日本の習慣を考慮した工夫をとり入れました。

Slack はこれからも、仕事をよりシンプルに、より快適に、より生産的に、という価値を提供してまいります。

■「Slack」とは

Slack は、チームの調整や共有作業をサポートするためのビジネスコラボレーションツールです。経営の効率化や組織の生産性向上のために不可欠なサービス、ツール、チームをつなぎ合わせ、優れた働き方を実現します。Slack は、史上最も成長が速いエンタープライズ ソフトウェア企業です。現在、世界 600 万人以上のユーザーが日常的に Slack を使用しており、50,000 以上のチームが Slack の有料プランを利用しています。日本での ARR（年間経常収益）は、APAC（アジア太平洋地域）で第 1 位であり、世界でも第 3 位となっています。

■Slack の特徴

～社内外コミュニケーション改善～

社内外のチームのすべてのコミュニケーションを一元化し、全メンバーが共有で作業できるワークスペースです。プロジェクト・トピック・部署などテーマごとに「チャンネル」を作成・分類することで、メンバーは様々な会話を整理し、適切なメンバーと会話することができます。

✓ 「チャンネル」作成・分類機能
✓ 音声通話機能・ビデオ通話機能
✓ 通知機能（必要な情報のみお知らせ）

～情報収集～

Slack 上で発生したすべての会話や文書などの情報を、検索ですぐに確認・アーカイブすることができます。また、機械学習により、使えば使うほど情報共有がスムーズになり、業務効率化が加速します。

✓ 検索可能なアーカイブ機能
✓ 機械学習(検索内容に最も合った会話、ファイルやメンバーを表示)
✓ 万全なセキュリティ対策

～ワークフロー効率化～

多くのビジネス向け・仕事効率化ツールやアプリと連携させることが可能です。様々なビジネスツールを一元化させ、チームのスピーディーな働き方をサポートします。さらに、Slack オープン API を利用すれば、簡単にオリジナルアプリを作成することも可能です。

✓ Google ドライブや Salesforce など数多くのビジネスツールと連携
✓ オープンプラットフォーム

■Slack Technologies, Inc.について

Slack Technologies, Inc.は、あらゆる規模のチームやビジネスが効果的にコミュニケーションできるエンタープライズソフトウェアプラットフォームを開発した企業です。Slack は、ひとつの統合環境内で他のソフトウェアツールとシームレスに連携し、組織全体がアクセスできるコミュニケーション、情報、プロジェクトのアーカイブを提供します。
サンフランシスコに本社を置き、ロンドン、ダブリン、メルボルン、ニューヨーク、トロント、バンクーバーに支社を展開する Slack は、ソフトバンク、アクセル、アンドリーセン・ホロウィッツ、DST、Google Ventures、ホライゾン、インデックス、IVP、KPCB、ソーシャルキャピタル、 スパーク、スライヴなど世界でも有名な投資ファンドから 8 億 4100 万米ドルの資金を調達しています。

■日本語版ローンチへのコメント

スチュワート・バターフィールド（Stewart Butterfield）
CEO 兼共同創設者

「2014 年の創立以来、Slack は日本市場で驚くべき有機的成長を遂げてきました。事実として日本は Slack にとって世界第 3 位の市場規模となっています。日本語版 Slack をリリースすることで、より多くの人に Slack を利用してもらえることを大変うれしく思います。また、今後も革新的な日本企業と提携していけることを楽しみにしています。」

カル・ヘンダーソン（Cal Henderson）
CTO 兼共同創立者

「日本は、世界でも最も素晴らしいテクノロジー・イノベーション文化を有する国の 1 つです。Slack により、あらゆる規模の日本企業が効率的な協働を実現できていることを誇りに思います。日本の様々な業界の企業が、今後も将来に向けて革新的な技術を生み出していくにあたり、日本向けにローカライズされた Slack から、より適切なサポートを提供していきたいと考えています。」

■サービス概要

サービス名：Slack
URL：https://slack.com/
対応 OS：

デスクトップ

OS	システム要件
Mac	OS X 10.9 以降
Windows	Windows 7 以降
Linux (β版)	Ubuntu 14.04 以降 Debian Jessie 以降 Fedora Workstation 21 以降

モバイル

OS	システム要件
iOS	iOS 9.0 以降
Android	Android 4.1 以降
Windows Phone (β版)	Windows Phone 8.0 以降

価格：
・無料版：¥0
・スタンダード版：¥850/ユーザー
・プラス版：¥1,600/ユーザー
・エンタープライズ版：応相談
公式画像素材：https://brandfolder.com/slack

参考資料

■Slack の創業ストーリー

Slack は、カナダ人企業家で現在 CEO をつとめるスチュワート・バターフィールドが 2013 年に開発したクラウドベースのチームコミュニケーションツールです。Slack はもともと、バターフィールドの小さな会社であった Tiny Speck でオンラインゲーム Glitch を開発していたころ、社内のコミュニケーションツールとして使われていました。2015 年までに Slack はその使いやすさやアプリ内機能の豊富さから、テック分野やメディアで注目を集めるようになりました。Slack では、コラボレーターは会話の中でお互いをタグ付けし、「星」マークで反応を伝え、チャットのスレッドでファイルを共有することもできます。また、非公開グループやダイレクトメッセージの他に、簡単なキーワードテキストコマンドで遊び心のある Giphy からコンテンツを取り込める GIF 生成ハックなど、面白い機能も多数あります。

生産性を向上させるビジネスコラボレーションツールの選択肢として人気上昇中の Slack は、2016 年 4 月に Thrive Capital がリードするシリーズ F ラウンドで 2 億ドルを調達するなど、ベンチャーキャピタルファンドで 5 億 4000 万ドルを集めています。2017 年、いよいよ DAU（デイリーアクティブユーザー）が 600 万人以上に達し、50,000 以上のチームが有料プランで Slack を使用するようになりました。Slack は、Salesforce ソフトウェア、Google Cloud、IBM Watson などの他のエンタープライズツールと統合するというミッションを推し進めながら、デベロッパーを歓迎し、メール管理から支出の追跡まで全てに対応する高度に専門化されたボットを数多く開発しています。同年、Slack はパートナーのエンタープライズ企業と連携し、Slack を生産性向上の原動力にしている Slackbot や、人工知能を使用した検索などの機能を改善するなど、生産性向上をワンストップで実現するツールになるために継続的に取り組んでいます。

■プロフィール

Stewart Butterfield（スチュワート・バターフィールド）CEO 兼共同創設者

スチュワート・バターフィールドは、あらゆる規模のチームやビジネスで効率的なコミュニケーションを実現するビジネスコラボレーションツール、Slack の共同創設者兼 CEO です。今日では、毎日 600 万人以上が Slack を利用し、顧客には Autodesk、IBM、CapitalOne、Conde Nast、eBay、EA などを抱えています。

Slack を開発する以前、バターフィールドは写真や動画のホスティングウェブサイト Flickr を共同で立ち上げ、2003 年から Yahoo!に買収される 2005 年まで率いていました。2008 年までに、ユーザーは 5,000 万人以上に増え、数十億の写真がアップされ、世界最大のウェブサービスのひとつとして知られました。

スチュワートは、ウェブに従事した約 20 年間、デザイナー、企業家、技術者として際立ったキャリアを積んできました。Time 誌では、世界でもっとも影響力のある 100 人のひとりに選ばれ、BusinessWeek のトップ 50 のリーダーに名前を連ねています。Wall Street Journal 誌の 2015 年のテクノロジーイノベーターを受賞し、Vanity Fair 誌のエスタブリッシュメントリストにも選ばれています。

Cal Henderson（カル・ヘンダーソン）CTO 兼共同創立者

カル・ヘンダーソンは Flickr の創立当初から技術開発を指揮し、API 使用のパイオニアでもあります。また現在では YouTube や Twitter を始め、多くの企業で使われている oAuth や oEmbed の基礎を開発した人物としても知られています。セントラルイングランド大学でコンピューター サイエンスの学位を取得しています。

参考資料

■ビジネスにおけるメッセージツール

～メッセージツールの多様化～
数多くのメッセージツールが存在していますが、そのほとんどが toC（一般消費者向け）のサービスであり、toB（企業向け）のサービス開発は遅れを取っていました。結果、依然として「メール」という“過去の遺産”を使うか、私用アカウントで、toC のメッセージツールを仕事でも使わなければならない場面が出てきています。結果としてセキュリティ面での問題が危惧されているだけでなく、いくつものメッセージツールやビデオ通話ツールでやり取りすることは、ユーザーに煩わしさを与える要因にもなっています。

～氾濫するソフトウェア～
2017 年 4 月の Netskope Cloud Report によると、従業員 5～10 人あたり、企業は 1 つの（業務用）ソフトウェアを導入しています。従業員数が 10,000 人の企業であれば、500～1,000 種類ものソフトウェアを導入している計算となります。さらに興味深い統計として、2016 年 4 月から 2017 年 1 月において、ある組織では使用するソフトウェアの数が 14%も増加したというデータがあり、これは新しいソフトウェアが 2 日に 1 つのペースで新たに導入されていることになります。
ソフトウェアが氾濫した結果、業務をするために必要となる情報資産が異なる場所に蓄積されてしまい、タスクを処理するためには様々なソフトウェアを行き来することになり、生産性の低下を引き起こしています。